

渡航先:マレーシア

実習期間:2012.02.06～2012.03.02

今回の海外実習で得られた成果・感想等

<スケジュール>

2012.02.04、大阪発、クアラルンプール経由でクチンへ前入り

2012.02.06～09,20～23、family medicine department にて実習。午前はクチン郊外の病院で外来見学、午後はクラスのゼミに出席。

2012.02.13～17、orthopedics department にて実習。クチン郊外の病院にて手術、診察の見学。

2012.02.24 マラリアの研究室訪問

2012.02.27～03.02 サラワク大学の試験期間のため実習なし

2012.03.03～09 シンガポール、クアラルンプールに訪れた後、大阪に帰国

<海外実習の目的>

英語にて医学実習を経験することで必要な英語力がどのようなものなのかを肌で感じるのが今回の最大の目的でした。さらにはマレーシアの医療と日本の医療を比較したいとも思っていましたし、マラリア、デング熱など熱帯感染症をみることができるといいなと思っていました。

<成果・感想>

まず英語力に関してですが、サラワク大学の学生は医学書を英語で読み、またプレゼンテーションも英語でしていました。医学学習について学生と話をしたのですが、日本のように母国語で医学を学べる環境がうらやましいと言っていました。いくら英語力が高いとはいえ、やはり母国語以外の文章の読解は苦勞もあるようでした。日本の医学生である私としては、母国語で医学を学べる強みを生かし、まず日本語で内容を理解し、それを英語に変換していくような勉強を今後はしていこうかなと思いました。

さらに英語でのコミュニケーションについてですが、スピーキングについてはそれほど大きな問題はなかったです。しかしリスニングですが、マレーシア人の発音は日本人よりはいいと思うのですが、やはりネイティブとはかなり差があったと思います。今後海外にいくときにも、必ずしも聴きやすい英語を話す人だけではないことを念頭におき、リスニングをもっと強化しないといけないなと思いました。同時に自分の発音も他の人に理解しやすいものに近づけたいなと思いました。

次にマレーシアでの医療に関してです。まず私は漠然と熱帯感染症の患者が多いのかなとおもっていたのですが、そのような患者数はそれほど多くなく、むしろ多いのは日本と同じく糖尿病や高血圧でした。さらに病院での臨床の作法が日本ほど統一されている印象がなく、管理がおろそかなせいか、糖尿病足壊疽の患者やひどい褥創の患者をみることもありました。特に褥創は私にとってかなり衝撃的なものでした。大阪大学の ICU で褥創対策にこまめに体位変換している看護師さんを見て、正直そこまでしないといけないものなのかなという印象をいただいていたのですが、本物のひどい褥創を目の当たりにし、絶対に防がないといけないものだとわかりました。さらに人喰いバクテリアに感染した患者や、驚くほど大きな甲状腺腫の患者などもみることができました。

またマレーシアは発展途上国であるため、日本ほど画像診断を行う敷居が低くありませんでした。したがって、学生も含めて身体診察の能力が非常に高く驚きました。私も医師となったら、とりあえず画像検査をオーダーするのではなく身体診察で必要な情報を入手した後、本当に必要な画像検査のみとるように努めようと思います。

実習後や休日は学生と一緒にご飯にいたり、あるいは登山や温泉などって楽しく過ごしました。さらに世界遺産であるグヌンムル国立公園にも行きましたし、キナバル山も登頂することができました。

私にとってこの海外実習は楽しくも為になる非常に有意義なものでした。今回のような機会を作ってくださった方々や奨学金の補助を与えてくださった方々に心から感謝いたします。